



- 1 帯山西小学校で開催される帯西まつり。多くの住民が企画から参加し、地域が一体となってにぎわうイベントになっている
- 2 校区内に防災行動に詳しい方がいることで、実現した避難所運営をゲームとして体験する「HUG講習会」。地域で防災を考えるきっかけになった
- 3 校区内にある競輪場を活かして行われるのが、競輪場通り商栄会と第3町内が協力して実施する「競輪場通り商栄会夏祭り」。校区外からも多くの人が集まる



帯山西校区自治協議会の鈴木之夫会長

帯山西校区 (平成25年4月現在)

人口計: 8,952人
世帯数: 3,975世帯
町内自治会数: 5



全体に行き渡るようになりました。鈴木さんは「これからは、今まで自治会に積極的にかかわっていなかった人たちの能力を地域活動でぜひ生かしていただきたい。そのことで、防災防犯面から地域力を高めることができそうです。校区には防災の専門家も住んでいます。そんな優れた人材が活動できる機会と場を増やしたい」と熱い思いを話してくれました。



- 1 「帯西応援隊」が実施する藻器堀川探検。子どもたちが地域を知り、上の世代の知恵を受け継ぐ活動になっている
- 2 PTA主催のスタンプラリーのシート。帯山西小学校が提唱する、ノータレビ・ノーゲームデーの情報が入っており、校区のイベントはこの日にあわせて企画される
- 3 校区の主要団体の代表が集まる地域懇談会。健康づくりなどに関する情報も交わされる

新しい発想や人材をまちづくりに生かす

比較 的新しく生まれたマンションの建設などで若い人たちも多く住むようになった帯山西校区。その一方で、「世代間交流」や「地域住民同士の交流」も、住民そのものが主役となっており、最近では「まちで、最近ではマンションの建設などで若い人たちも多く住むようになった帯山西校区。その一方で、「世代間交流」や「地域住民同士の交流」も、住民そのものが主役となっており、最近では「まちで、最近では」

て川の探検をしています。こうして「型にとられない発想」で始まった藻器堀川探検が、さらに新たな地域活動のきっかけを生み出しています。

PTA主催のスタンプラリーも好評です。地域の行事をチェックポイントにし、参加したらスタンプがもらえる仕組みです。「イベントに参加してもらおう目的で始めました。今では、イベント自体を楽しみに来る人も多くなり、参加を呼びかけるのに役立っています」と帯山西小学校の岡田行雄PTA会長は言います。

中でも力を入れているのが、年2回の地域懇談会。小学校のPTAが主催で、地域団体や警察、幼稚園など、100名を超える参加があります。話題の中心は、防犯やイベントなど子どもに関する事。これにより、校区みんなでの交通安全。パトロールや危険箇所の状況など、防犯、防災に関する情報が校区